【猫町UG】ドレスコードは仮面着用。アンダーグラウンドな読書会に参加してみた。

コエヌマカズユキ　2015年1月2日　ニュース

新宿・歌舞伎町の中心部にある雑居ビル。日が落ちて辺りが薄暗くなり始めた頃、ポツリポツリと人が集まってくる。彼ら彼女らは建物の地下へと続く階段を下り、扉の向こうに広がる空間へ飲みこまれていく。薄暗い会場の中では、仮面を付けた無数の人々がうごめいていた……このイベントは何なのか、どのような目的で行われているのか、潜入取材を敢行した。

妖艶なダンスからイベントは幕を開けた

突然始まったダンスに、会場の目は釘付けとなった

会場はまるで仮面舞踏会のような、何とも怪しげな雰囲気に包まれている。これから何が始まるのか、期待と不安が高まっていく。不意に明かりが怪しい群青色に変わると、全身タイツに身を包んだなまめかしい女性がステージに登場した。無数の仮面が一斉に向けられる中、女性は音楽に合わせて妖艶な踊りを披露する。

あまりにも怪しいこのイベント、実はれっきとした読書会。東京・名古屋・関西を中心に活動している「猫町倶楽部」が主催の「猫町UG（アンダーグラウンド）」だ。普段はビジネス書が課題本の「アウトプット読書会」、文学が課題本の「文学サロン月曜会」を開催しているが、「猫町UG」はその名の通り、アンダーグラウンド版の読書会。課題図書は性愛小説で、ドレスコードは仮面となっている。

3回目となる今回の課題図書は、フランスの作家のピエール・クロソウスキー／山口椿による「ロベルトは今夜」（第1回は「悪徳の栄え（マルキ・ド・サド）」、第2回は「O嬢の物語（ポーリーヌ・レアージュ）」）。参加者は約50名で、男女はほぼ半々。7～8つに分かれた各テーブルで、猫町倶楽部のスタッフが司

キーワード

ゴールデン街
スポンサー募集
トークイベント
ワークショップ　一日店長
募集　周年イベント
定期イベント　展示会
怪談　授賞式
掲載情報　文学合コン
月に吠える通信
牧師バー　納涼祭
読書会

会役を務める中、課題本に対する意見や感想が交わされる。発言内容は自由だが、人の意見を否定するのはNGというルールが設けられている。

＜ロベルトは今夜 あらすじ＞
神学校の教授のオクターヴは、原罪の意識を持たせることを目的に、貞淑な妻ロベルトを数々の男たちと不倫に陥らせてその様子を覗き見る。ところがロベルトは性に目覚め、肉欲に溺れていくのだった……。

「原罪を妻に感じさせることは、神学者としてのプライドなんじゃないかなあ」
「オクターヴは妻を堕落させることで快楽を得たいんだと思う」
「夫婦は噛み合っていないけど、互いに満足はしているのよね」
「この本には本能を隠すのはダメ、というメッセージがある気がする。僕たちは普段社会とか社会の中で押さえつけられているけど、本当はそうじゃないんだよ、と」
「表現がすごくきれい。谷崎純一郎の世界に似ているね」

課題図書に対する意見や感想が交わされる。著者の山口椿さんもゲスト来場し、参加者との会話を楽しんでいる。そのうちに話題は少しずつ広がり、参加者たちの恋愛観や体験談へ。

「寝取られることを最近ではNTRっていうんですよね」
「でもさ、エロビデオはOKなのに、何で風俗はダメなの？ 北方謙三も言ってるじゃない、ソープ行けって」
「俺の同期は、不倫の末に会社のパートさんを落としましたよ。一緒に寝てる現場を旦那に見られて、大騒ぎになったらしいけど」

「私、一度も彼氏ができたことないんです」
「えー、何で！ 仮面をしてもこんなに美人なのに！」
「うん、いたことはあるんですけど、すぐにダメになっちゃったと言うか……」

参加者はほぼ初対面の人ばかり。それでも、何の違和感もなく会話をし、盛り上がっているのは、課題本があるからだろう。性というテーマは、普段なかなか話をしづらいが、課題本のおかげで話すことができるのだ。まさに、本や読書が結んだコミュニティと言える。

読書を通じて知らない世界を体験できる

猫町UGの“隊長”であるチアキさんは、元々フェティッシュやエロティシズムを愛好している。その世界を、読書会を通じて参加者にも体験してほしい、という思いから猫町UGを開催するようになった。「新しいことをするには口実が必要じゃないですか。だから、これまでアングラに興味が無かった人にも、読書会を通じて体験してもらっているんです」とチアキさん。参加者の中には、44歳でニート、童貞という男性がいた。猫町倶楽部の常連だという彼も口を揃える。

「僕はこれまで本ばっかり読んできて、女性と付き合ったことが無ければ、遊び方も知らない。そういう僕らに対して、読書会という制度を通じて、リア充的な世界や楽しみを体験させてくれるのが猫町倶楽部なんです」

以前、読書会の後にクラブでイベントが開催された際、彼はDJを体験したという。これまでクラブに足を踏み入れたことなどもちろん皆無。これまで知らなかった世界を体験できたんです、と笑顔を見せる。

「猫町倶楽部の参加者で、アンダーグラウンドイベントに行く人はほとんどいないと思います。けれど自分の枠を超えたり、生活様式を踏み越えたりする経験は絶対に必要。そうすることで予期しないチャンスや偶然がやって来るし、生き方も変わるからです」

そう話すのは、猫町倶楽部の代表の山本多津也さんだ。参加者にUGの世界を覗いてもらう。あるいはUGの人たちに読書会を知ってもらう。すると趣味嗜好を超えて、年齢も職業もバラバラな人たちが集まる。新たなコミュニティが生まれ、人間関係が変わることで、生き方の変化にも繋がるという。

また、猫町倶楽部に参加するには、課題図書を読んでくることが義務付けられている。本は好きではないけれど、UGの世界を体験したいから無理やり読んできました、という方も大歓迎だと山本さん。それがきっかけで「本ってこんなに面白いんだ！」と感じてもらえるかもしれないからだ。

「課題本に合わせたファッションやパフォーマンスを取り入れているのも猫町倶楽部の特徴です。色んなジャンルと組み合わせて、本の楽しみ方をさらに広げていこう、というコンセプトですね。純粋な読書会をしている人たちからすると不純に思えるかもしれないけど、そんなことを言っているとさらに本を読む人が減っていく。本にはいろいろな楽しみ方があっていいと思うんです」

「本」「読書」を通じて、新たな世界に足を踏み入れる。猫町倶楽部は読書本来の楽しみ方に加え、新たな楽しみ方を提供している。皆様もぜひ、本を通じて新たな世界を覗いてみてはいかがだろう？

＜猫町倶楽部 公式サイト＞

思い思いの仮面を着用している参加者たち

非日常の空間の中で本に対する感想が交わされる

この読書会をきっかけに、アングラに興味を持ったという参加者も

猫町UGの隊長を務めるチアキさん(中央)

参加者と交流する山口椿さん

各テーブルから選出されたベストドレッサーたち

参加者全員で記念撮影